都留市役所から谷一小へかけて、「かっては『谷村城』だったよ」と話すと驚かれる人は多い。市役所玄関脇に、江戸時代の絵図面もあるのだか、ゆっくり眺める人も少ない。

桂川をはさんで「お城山」があり、その山頂の「勝山城」だけがお城だと考えているからであろう。都留市は「平城」と「山城」の二つの城を持った城下町だったのだ。

郡内領は「小山田氏」「鳥居氏」「秋元氏」三代の治政と普通に呼ばれるが、鳥居元忠公のあと、豊臣家側の大名(例えば浅野氏)が領主になったことはあまり知られていない。

１６００年の「関ヶ原の戦い」で東軍が勝って徳川時代が始まるのだが、そのためか浅野氏は歴史に埋もれてしまっている。

徳川家は股肱の臣(自分の手足のように一番たよりにする家来)として、鳥居氏、秋元氏を郡内領に置いたのは、甲州武田氏の技術を高く評価する故に、その復活を怖れたからにほかならない。事実、秋元氏は老中にまで栄進する高級官僚だったのである。

宝永1年(１７０４)秋元氏の川越転封で谷村藩はなくなり、翌年谷村城は廃城となって、以降郡内領は天領となって代官所が置かれることになる。幕末には韮山の代官、江川太郎左ェ門が代官を兼務したとも伝えられる。

その城下町谷村は、その町造りの形態から法泉寺、普門寺の通りが「本道」であったことは、柳田橋から谷村高校前の通りをかつて古老達が「新道」と呼んでいたことからも了解できよう。従って大月方面へは、東漸寺、専念寺、西涼寺のあたりが横町と呼ばれていたのも、城下へ攻め入るのには曲がりくねった道を配置して防ぐためだったことがわかる。

長野県の飯山市のように、谷村の城下町も城を中心に寺が外郭を形成して、いざという時は防禦にも避難にも利用される場所の配置となっていることを思わせる。

かって江戸時代の寺巡り歌として

◇

上の原の法泉寺
がけっぷちの普門寺
長大門の西願寺
われ鐘たたきの長安寺
竹やぶ続きの円通院
太鼓たたきの東漸寺
お方もちの専念寺
ずっこけおびの西涼寺
日なたぼっこの深泉院

◇

と歌われていたと古老は伝えている。

今、ミュージアム都留を中心として、各方面から都留を探訪される方々が増えてきている。

こうした郷土の歴史を語り伝えることの大切さを、子ども達にもあらためて理解してもらいたいものである。

連載・青少年健全育成シリーズ　第259回

「温故知新
—古(故)きをたずね(温)て新しきを知る—」

毎月第１日曜日は「家庭の日」
毎月第３日曜日は「青少年を育む日」です。
青少年育成都留市民会議編集委員

広報「つる」広告募集！

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか？
広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています(10,500部発行)ので、多くの方の目に触れます！

問合先：行政管理課　秘書広報担当

広告料金

掲載場所	印刷色	金額 / 枠	備考
裏面	カラー	20,000	2カ月掲載
内面	2色刷り	10,000	2カ月掲載

掲載月は、①1・2月②3・4月③5・6月④7・8月⑤9・10月⑥11・12月の6パターンとなります。
掲載状況につきましては、下記をご参考としてください。
また、詳細につきましては、ぜひお問い合わせください。

広　告　掲　載　欄

広　告　掲　載　欄